

あいち病害虫情報 最新情報

平成 23 年 4 月 15 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ムギ類赤かび病防除

ムギ類赤かび病の防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。本年のコムギの出穂期は平年より4～6日（農林61号で4～5日、イワイノダイチで6日遅い）遅くなると予測されています。15日発表の週間天気予報によれば、向こう1週間は、気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、16日と期間の中頃に雨の降る日があるでしょう。期間のはじめと終わりには高気圧に覆われて晴れる日もある見込みとなっています。最高気温は平年並か平年より低いでしょう。最低気温は、16日は平年より高いですが、その後は平年並か平年より低く、期間の終わりにかなり低くなる日がある見込みです。降水量は平年並で、感染の好適条件となるおそれは少ない見込みです。今後、赤かび病の防除適期を迎えますので、天候の推移に注意しながら、穂が出そろったほ場から順次防除を進めましょう。

水稻の育苗期防除

普通栽培の播種作業が始まります。次の点に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 稔実不良もみは病原菌が付いている可能性が高いので、塩水選により取り除く。
- 2 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行う。
- 3 浸漬処理法の場合、薬液温度は15～20℃とし、処理濃度と時間を守る。処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾する。
- 4 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避ける。
- 5 出芽温度は30～32℃を守って、出芽器の中で長時間加温しないようにする。
- 6 種子消毒後の廃液は、適正に処理する。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理する。

浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょう。また、温湯種子消毒やエコホープDJなどの微生物農薬を利用するのも良い方法です。ただし微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるので、注意しましょう。また、温湯種子消毒を行う際は、適切な処理温度、時間を守りましょう。

6月下旬まで果樹カメムシ類は少ない！

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の飛来数は越冬成虫量と前年のスギ・ヒノキ科花粉飛散総数でおおよそ予測できます。今年の果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬成虫量は少なく、昨年（2021年）のスギ・ヒノキ科花粉飛散総数も少ないため、6月下旬までは果樹カメムシ類の飛来数は少ないと予測します。詳細は4月4日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

落葉果樹の病害虫

モモハモグリガの越冬世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数は今のところやや少ない状況です。しかし、第一世代ふ化幼虫の防除適期を逃すとその後の世代は生育ステージがばらつくため、防除が難しくなります。落花1週間後を目安に適期に防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代成虫のフェロモントラップは、誘殺始めは遅れましたが、誘殺数は、4月に入ってから各地で平年並となっています。越冬世代成虫は今後、展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こしますので、モモハモグリガとともに防除しましょう。

ナシ黒星病は4月上旬の発病花そう基部率調査で発生を確認していませんが、降雨が続くと発生量が増加するおそれがありますので注意しましょう。ナシ赤星病の冬孢子層は成熟してきており、本格的な小生子の飛散が始まります。開花後の防除適期を逃さないように注意し、降雨が続く場合は、黒星病などとともに防除を行いましょう。

モモでは、せん孔細菌病の発生が懸念されます。昨年発生が多かったほ場では新梢からの感染を防ぐため薬剤防除を徹底し、春型枝病斑は見つけ次第、取り除きましょう。

ブドウ黒とう病は、展葉初期から新梢伸長期に降雨が続くと多発しやすくなります。伝染源である前年の罹病枝や巻きひげは、切り取って適切に処分するとともに、適期防除を心がけましょう。

果菜類の病害虫

ナスではうどんこ病とすすかび病の発生が増加しています。同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。

ミナミキイロアザミウマの発生量が多くなりやすい時期なので、密度の低いうちから防除を徹底しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を施設内に入れない、施設内で増やさない、施設外に出さないの3つです。次作の感染源を減らすためにウイルス媒介虫を施設外に出さないことを徹底しましょう。

トマト黄化葉巻病が発生している施設では、収穫終了後、残さを持ち出す前に施設を密閉してウイルスを媒介するタバココナジラミを死滅させましょう。

キュウリ黄化えそ病が発生している施設があります。自然換気が行われる時期ですが、施設開口部にはネット等を張り、施設外にミナミキイロアザミウマを出さないようにしましょう。

- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820